

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 8 月 17 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470206032		
法人名	医療法人 厚生堂 長崎病院		
事業所名	あいあいホームながさき		
所在地	広島県広島市西区横川町三丁目6-17 (電話) 082-532-6636		
自己評価作成日	平成27年6月24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3470206032-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年8月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>訪問看護と契約して、週に一度の定期訪問をして頂いている。また、月に二度程、往診があり健康管理面において連携がとりやすくなっている。 比較的職員の数も多く、離職率も低い。ベテランの職員も多いので、応用の必要な介護にも柔軟に対応することができ、些細な要望にもなるべくお答え出来るよう努めている。また、知識と経験に基づいたケアを行うことができる。 屋上には、季節を感じる事ができる草花や野菜を植え、利用者と共に育て、収穫したものを食べるなどの取り組みも行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業理念「おもいやりの介護」のもと、フロー目標を設定しており、今年度は「当り前の事を当り前に行う」であり、それを具体化した一つが「本日の目標」（申し送りシート）の工夫である。朝の申し送りで、シートの右上にその日の特に意識すべき実践目標を明記すると共に、その共有化されたチーム目標を午後でも見直し、迅速な実践に繋げている。もう一つは、利用者毎の職員担当制である。開設後、5年間は過渡期であり、様々な問題点もあったが、5年前に職員の離職はゼロになった。それに伴い、家族からの苦情も減り、利用者全体を見る力は育ってきたので、次は各自の「個の力」を付けるために利用者には役割作りを、職員は意識付けのため、自分の顔写真を担当利用者の居室の扉に掲げる事になった。その関わりの強化で、情報も増え、データ化することで共有化・実践に繋がっている。ここでは、「働きやすさ」をテーマにして、日頃から「働く目的・使命」を「覚知」してケアに携わる様にしており、そこから職員間の信頼関係・チームワークが培われ、事業所の雰囲気・利用者の穏やかさに繋がっている。また、課題として家族からの意見を運営に反映させたい意向があり、そのため運営推進会議をより充実させる等、家族との関係性を強める様、努めている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業理念「おもいやりの介護」のもと、日常の申し送りを通して、日々の理念の実現に取り組んでいる。また、申し送りシートに日々の目標を掲げ、その目標をチームで必ず行える様に意識し、実践している。	理念は、開設後間もなく当時の職員全員で作ったもので、利用者・家族・職員同士等に対する誠実な対応を指針としている。年度始めに管理者がそれに沿った方針を策定し、フローア目標を設定する。今年度は「当り前の事を当り前に行う」である。それを具体化したものが「本日の目標」（申し送りシート）であるが、その共有化されたチームの実践目標を午後には見直す即応性もある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の散歩や日々の買い物を通じて、近所の方やお店の方に挨拶や話をされている。また、地域でのお祭りやイベントに参加させて頂くなど地域活動の参加により、地域住民の方々との交流に努めている。	事業所は、町内会に加入し、盆踊り等の地域行事に積極的に関り、地域に溶け込む努力をしている。職員の身内や管理者の繋がりで大衆演劇やミニ・オーケストラのボランティア訪問等、相互交流も為されている。また、「亥の子祭り」で地域児童との世代間交流や地域住民の要請により公民館等で介護教室を開き、一社会資源としての地域貢献も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターと連携をはかり、地域団体の認知症研修会などの講師を務めるなどしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を開催し、状況など、取組みの報告を行うと共に、今後の活動に際しての意見交換を行っている。	運営推進会議は、地域住民代表として町内会長・地域包括支援センター職員、時に民生委員をメンバーとし、定期的開催されている。会議では事業所の現況・行事報告等が、一定の意見交換・情報交換と共に行われ、サービスの質の向上に繋げる努力が為されている。また、開催日に合わせて、避難訓練の実施をする等の工夫も見られる。	会議は平日の午後に開催される為か、家族の参加も少なく、議事内容的にも行事等の報告が主で、本来あるべき議題の「サービスの実際・評価への取組み状況等」に対する意見交換が行われていない。可能ならば、開催日時をできるだけ多くの参加が得られる日に調整し、議事内容についても、会議の趣旨にあった物を選定・進行する案等、再検討し、有意義な会議として開催する事を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町担当者に運営推進会議に出席していただき、事業所の活動内容や実績を報告させていただいている。また、介護保険等制度について電話などで相談させていただいている。	運営推進会議には毎回、地域包括支援センター職員が参加し、情報の共有化が図られている。町内会からの要望に基づいて地域包括支援センターから依頼され、職員が認知症研修の講師として協力することもある。また、グループホームの制度等について、市担当者に相談や助言を求める等、良好な関係が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束にかかるマニュアルを整備しており、スタッフ同士で身体拘束廃止委員会を作り、全スタッフに資料として配布している。やむを得ず行う場合は、マニュアルに則り、保証人の同意を得るようにしている。</p>	<p>「身体拘束に係るマニュアル」を策定し、事業所には身体拘束廃止委員会を設置している。職員は「身体拘束はしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で、実践を重ねている。例えば、日中は玄関を施錠せず、センサーを設置して、見守りをしたり、利用者によっては保証人の同意を得て、居室にセンサーマットを設置し、リスク管理に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修やミーティングなどを通じて、理念を深め虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要に応じ、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約内容・重要事項説明を十分に行い、利用者・家族に同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者・家族からの意見、苦情等は面会に来られた時など、日常の会話の中から受けている。また、外部の苦情申立機関は重要事項説明に明記し、契約時に説明を行っている。</p>	<p>利用者・家族からの意見、要望は「本日の目標」（申し送りシート）を活用して、職員間で情報を共有化している。家族から居室他の清潔保持について意見が出され、清掃面の改善に取り組んでいる。それに伴い、利用者全体を見る力は育ってきたので、次は「個の力」を付けるために利用者は役割作りを、職員は意識付けを目指し、自分の顔写真を担当利用者の居室の扉に掲げる事になった。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々の申し送り・ミーティングを通じて、職員の意見、提案を運営の参考としている。</p>	<p>職員意見の反映の機会としては、朝夕を含めて5回の申し送りがあり、「本日の目標」で情報共有している。また、毎月の合同ユニット会議や、半期毎の管理者との個人面談等で職員間の意見交換を行っている。その中から「本日の目標」の書式を改善することにより、申し送りでの情報が、より伝わりやすくなった例がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>自己啓発のための研修を行ったり、外部研修が受講できる環境を整えるように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>定期的に内部研修を行う等して、職員のレベル向上に努めている。新人職員には、プリセプターとしてベテラン職員が教えるシステムになっている。また、日々、職員間でケアについて話し合っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>他事業所と独自に、カンファレンス・研修会を行う等して、サービスの質の向上を図っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用者・家族の要望や意見を基に、ケアプラン作成を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居に当たっては事前訪問を行い、利用者の状態・状況の把握に努め、家族の要望などを聴く機会を設けて、個別の対応に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談の中から、利用者・家族のニーズを明確にするよう努めている。また、それに対しての理解・同意を得た上で、個別のケアに取り組むように心掛けている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日常生活において、個々が役割を持って生き生きと生活できるようにしている。調理活動で言えば、包丁を使う、味付け、取り分け等、共に調理している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>利用者を中心とし、家族と連携を取りながら支援体制を整えるよう努めている。家族からの直接的支援をケアプランに取り込んでいる。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>友人や知人等、馴染みのある方が来所しやすい環境作りに努めている。</p>	<p>「気軽に訪問できる事業所作り」を心掛けており、その旨を契約時から伝え、関係継続の支援をしている。また、利用者との会話や生活歴を参考に、外出支援を行っている。宮島の家が気がかりな利用者のため、家族と連絡を取り、自宅訪問を計画した例がある。更に昔、礼拝に通っていた教会に2か月に1回、職員が同行した例もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席の配置は、利用者の個性を把握した上で誘導を行う等配慮している。また、利用者同士も関わりが持てるように、グループワークも取り入れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した利用者にも積極的なアプローチは行っていないが、訪ねられた時には、今まで通りの関係が保てるように心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の申し送り、ケアプラン作成において把握するよう努めている。また、家族来所の際、入居前の暮らし方の希望等を聞き、反映している。	利用者毎に担当者を決め、職員は利用者とはゆっくり話す時間を作り、その方の思いを把握する様努めている。例えば、自宅がどうなっているか心配な方のために家族と相談し、「自宅訪問」の計画を立案した。その結果、普段、車いす生活の方が、家の中では伝い歩きをされ、喜ばれていると、近所の方も集まり歓迎を受け、皆で記念写真を撮った例もあった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や嗜好等は、利用者・家族から随時聞き取れるようにしており、申し送り、ケアプラン等で周知するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活記録を活用し、一人一人の状態を把握するよう心掛けている。また、毎日の申し送りにおいて、職員が周知するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日常生活の中から利用者・家族の要望・希望等を聞き、それに基づいてケアプランを作成している。また、それについて家族から同意を得て交付している。</p>	<p>利用者毎に担当職員を決め、随時、職員間で話し合いをしながら、モニタリングを実施している。家族等の関係者の情報も含め、計画作成担当で集約し、必要時に出勤職員でカンファレンスを行い、計画の見直しに繋げている。例えば、普段殆ど発語のない方が、カーブの話に目を輝かせたのを契機に、野球観戦の計画を立案し、観戦が実現するとその後家族も参加するようになった例もある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常生活記録において、24時間の記録をつけている。また特記等においては、裏面に詳細を書き、申し送りで周知するように努めている。申し送りノートを活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者個々の状況に応じて、夜勤を2名体制にする、家族と外出していただく等、臨機応変に対応するよう、心掛けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内のお地藏様の散歩や、地域商店街での飲食等、地域資源を活用した支援を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>同一法人の医療機関の医師が月に2程度往診を行うと共に、随時必要に応じて対応している。</p>	<p>入居前の主治医の受診継続も可能で、その際は家族の付き添いが原則となっている。なお、重大疾患の場合は職員も同行する。内科・認知症については、月2回利用者全員に対し母体法人である協力医の往診がある。その協力医との医療連携により週1回の訪問看護や24時間相談・往診体制もあり、迅速な対応が可能である。また月1回の訪問歯科もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>事業所が独自に訪問看護ステーションと契約を行っている。週に一度、定期的な健康管理を行うと共に随時、相談・緊急時の体制も整えている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中も医師から経過について情報を頂くよう努めている。また、退院後も医師及び訪問看護ステーションと共同してフォローにあたっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>協力医療機関の医師並びに家族と話し合い、訪問看護ステーションのバックアップ体制を加味しながら、看取りを含め、方針を決めている。</p>	<p>重度化した際には、本人・家族・医師等と話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。看取りを始めて5年、数例の経験を有するが、今年度から入居時に、「看取りに関する指針」による説明と同意書の交付をして事前の方針を共有している。看取りのマニュアルも備え、事業所内でも必要に応じ随時、それらに対する研修を実施している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時対応の研修などに参加し、事故発生時に備えている。また、急変時には、協力医療関係・訪問看護ステーションと連携をとれるよう、日常的に情報交換を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>毎年度、消防署に依頼し、消防訓練を行っている。ホームの上階には同一法人の看護師寮があり、緊急時の体制も整えている。</p>	<p>自主訓練を含め、年2回以上、避難訓練を行い、内2回は消防署員も立ち会い、運営推進会議の開催日に実施し、会議参加者に訓練の評価を受けている。利用者の参加や1階デイサービスとの合同訓練等、実践的な内容となっている。また、大災害時には、事業所を一時的な緊急退避施設として地域住民に利用してもらえるか、町内会と話し合いを進めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人としての尊厳を守ることを前提としたケアを心掛けている。誠実な対応を心掛けている。	職員は利用者とはゆっくり話す時間を作り、その方の思いを把握し、行動を理解して、誠実な対応に努めている。例えば、亡夫を探して不穏になる方に対し、その方の尊厳を蔑ろにすることなく、職員との信頼関係を前提に、本当の事を伝えて、寄り添いながら支援する。そうすることにより、落ち着かれるようになった例もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者のニーズを明確にした上で、本人の思いや希望を最大限に活かせるよう促しを行っている。自己決定を尊重したケアを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のニーズに沿って、個別ケアに取り組んでいる。本人のペースを尊重したケアを心掛けている。起床時間、食事時間も、本人の体調・生活ペースに配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容時、自己選択をしていただけるよう支援している。また、外出時等は利用者と話し合いながら、洋服を決めたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物へ一緒に行き、季節感を取り入れたり、一人一人の状態に合わせて配慮している。食事の準備・片付けにおいては、できる限り利用者の参加を促している。	職員の中には3人の栄養士もおり、利用者の好みや意見を参考に献立を考え、担当の職員が、1週間分の食材を近くの大型スーパーに利用者と一緒に買い物に行っている。土用の日に鰻が嫌いな人に対し穴子に替えた配慮もある。利用者は、食材の買い出し、調理の下準備など役割に応じた手伝いを職員と共に行っている。折りにふれての外食グルメも好評である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に応じて食事の内容等、柔軟に対応するよう心掛けている。また、十分な水分摂取を心掛け、嗜好に合った飲み物を数種類常備しており、嗜好に合わせて選択していただけるよう配慮している。毎日、水分摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、必ず口腔ケアを促している。特に就寝前の口腔ケアは徹底して取り組むようにしている。必要に応じて訪問歯科医等と連携を図る等して、支援している。定期的に義歯のメンテナンスを行っている。また、訪問歯科医より口腔体操の指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個別に状態・状況を把握し、適切な排泄支援を心掛けている。できる限りトイレでの排泄が行えるように支援している。例えば、利用者の部屋から近いトイレを覚えていただくなど支援している。	出来るだけトイレで排泄してもらう様にトイレ誘導している。その為に排泄記録表や表情・行動により、各人の排泄パターンを把握している。以前には、入居時のオムツからパンツに改善した例もあったが、パンツ交換が本人の負担になる場合は、オムツ対応の事もある。また利用者によっては夜間、動きを感知するセンサーで早目の対応をする例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	「毎日排便」を目指している。排便を促し易い食材をとっていただけるよう配慮している。また、便秘の際は主治医・訪問看護ステーションに服薬調整を相談し、指示を仰いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者の状態や希望に応じ、個別の入浴支援を心掛けている。時間も基本は午後に入浴しているが、午前・就寝前等、柔軟に対応している。	午後の入浴を基本とするが、状況により柔軟に対応している。利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの入浴温度や時間等、個別に支援している。季節によっては、柚子湯に浸かって、入浴を楽しめる工夫も為されている。入浴を単なる保清の場ではなく、コミュニケーションの場としての意識も持って関わっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	起床時間や食事時間等、施設のタイムスケジュールに固執せず、一人一人のペース、思いを重視して生活していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問看護ステーション・薬剤師と連携し、個々の薬について把握し、飲める形状にて提供させて頂いている。利用者の不調に気付いた際には、その症状を具体的に主治医・訪問看護ステーションに連絡しており、必要に応じて服薬に関する相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	施設行事・外出・畑での野菜収穫など生活に楽しみが持てるように支援している。また、個別に生活歴を生かした役割、趣味が持てるように配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望者には、個別に対応するよう配慮している。花見や紅葉狩り、ドライブ、大型商業施設などの外出支援を行っている。	普段から希望により、少人数で近所の地藏参りの散歩や買い物を楽しんでいる。初詣・花見等の季節行事の他、縮景園・広島城の菊花展等、普段は行けないような場所への外出支援も行っている。また昔、クラシックバレーをしていた利用者が、トレーニングをするために、近くにある法人の健康増進センターに、週1回徒歩で通うようになったこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の管理に関しては、自己責任である事を同意していただいた上で、希望者には所持していただいている。また、日常のお小遣い等に関しては、希望者には別段の契約の下、小口現金に限りお預かりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望に沿うようにしている。また、携帯電話の使用も取り扱うなどを含め希望に沿った形で支援している。また、施設の電話を利用し、家族などと話せる機会を設けている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間兼食堂には、利用者の写真を掲示しており、テーブルには花を生けるなどして、和める空間作りを心掛けている。また、天井や壁も落ち着いた色合いにしており、調度品等も馴染み易い一般的なものを使用している。	リビングを中心とした共用空間は、ほぼ毎日掃除をし、清潔な居心地良い場所となっている。また、テーブルの高さは利用者の背丈を考慮して、2種類に設定している。テレビやソファ等の配置も見易さ・利用者同士の相性・動き易さ・職員二人でも見守り出来る体制に配慮している。更に屋上庭園での、季節の草花・野菜作りが生活を癒し、食卓を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	目線を変えた場所にソファを配置している。また、利用者同士の関係性に常に留意して、必要に応じて席替え・配置換えを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	できる限り使い慣れたもの、馴染みのあるものをご用意いただけるよう、入居前にお話をしている。	各居室には、ベッド、エアコン、カーテンが設置されている。床掃除も定期的に業者が入り、また、気がつけば主に担当職員も行っている。利用者は使い慣れた物や家族の写真等、好みの物を持ち込み、寛げるような工夫が為されている。更に、夜間の安全面やトイレ誘導を考え、「動き」センサーを設置する時もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はバリアフリーとして、車椅子走行も支障がないように、スペースも確保している。また、側面には手すりを設置しており、身体機能を活かした生活が出来るよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業理念「おもいやりの介護」のもと、日常の申し送りを通して、日々の理念の実現に取り組んでいる。また、申し送りシートに日々の目標を掲げ、その目標をチームで必ず行える様に意識し、実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣散歩や日々の買い物を通じて、近所の方やお店の方に挨拶や話をされている。また、地域でのお祭りやイベントに参加させて頂くなど地域活動の参加により、地域住民の方々との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターと連携をはかり、地域団体の認知症研修会などの講師を務めるなどしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を開催し、状況など、取組みの報告を行うと共に、今後の活動に際しての意見交換を行っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町担当者に運営推進会議に出席していただき、事業所の活動内容や実績を報告させていただいている。また、介護保険等制度について電話などで相談させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束にかかるマニュアルを整備しており、スタッフ同士で身体拘束廃止委員会を作り、全スタッフに資料として配布している。やむを得ず行う場合はマニュアルに則り保証人の同意を得るようにしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修やミーティングなどを通じて、理念を深め虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要に応じ、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約内容・重要事項説明を十分に行い、利用者・家族に同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者・家族からの意見、苦情等は面会に来られた時など、日常の会話の中から受けている。また、外部の苦情申立機関は重要事項説明に明記し、契約時に説明を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送り・ミーティングを通じて、職員の意見、提案を運営の参考にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己啓発のための研修を行ったり、外部研修が受講できる環境を整えるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に内部研修を行う等して、職員のレベル向上に努めている。新人職員には、プリセプターとしてベテラン職員が教えるシステムになっている。また、日々、職員間でケアについて話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所と独自にカンファレンス・研修会を行う等して、サービスの質の向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者・家族の要望や意見を基にケアプラン作成を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居に当たっては事前訪問を行い、利用者の状態・状況の把握に努め、家族の要望などを聴く機会を設けて、個別の対応に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談の中から、利用者・家族のニーズを明確にするよう努めている。また、それに対しての理解・同意を得た上で、個別のケアに取り組むように心掛けている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日常生活において個々が役割を持って生き生きと生活できるようにしている。調理活動で言えば、包丁を使う、味付け、取り分け等、共に調理している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>利用者を中心とし、家族と連携を取りながら支援体制を整えるよう努めている。家族からの直接的支援をケアプランに取り込んでいる。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>友人や知人等、馴染みのある方が来所しやすい環境作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席の配置は利用者の個性を把握した上で誘導を行う等配慮している。また、利用者同士も関わりが持てるようにグループワークも取り入れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した利用者に積極的なアプローチは行っていないが、訪ねられた時には今まで通りの関係が保てるように心掛けている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の申し送り、ケアプラン作成において把握するよう努めている。また、家族来所の際、入居前の暮らし方の希望等を聞き、反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や嗜好等は利用者・家族から随時聞き取れるようにしており、申し送り、ケアプラン等で周知するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活記録を活用し、一人一人の状態を把握するよう心掛けている。また、毎日の申し送りにおいて職員が周知するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日常生活の中から利用者・家族の要望・希望等を聞き、それに基づいてケアプランを作成している。また、それについて家族から同意を得て交付している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常生活記録において、24時間の記録をつけている。また特記等においては、裏面に詳細を書き、申し送りで周知するように努めている。 申し送りノートを活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者個々の状況に応じて、夜勤を2名体制にする、家族と外出していただく等、臨機応変に対応するよう、心掛けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内のお地藏様の散歩や、地域商店街での飲食等、地域資源を活用した支援を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>同一法人の医療機関の医師がつきに2程度程度往診を行うと共に、随時必要に応じて対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>事業所が独自に訪問看護ステーションと契約を行っている。週に一度、定期的な健康管理を行うと共に随時、相談・緊急時の体制も整えている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中も医師から経過について情報を頂くよう努めている。また、退院後も医師及び訪問看護ステーションと共同してフォローにあたっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>協力医療機関の医師並びに家族と話し合い、訪問看護ステーションのバックアップ体制を加味しながら、見取りを含め、方針を決めている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時対応の研修などに参加し事故発生時に備えている。また、急変時には協力医療関係・訪問看護ステーションと連携をとれるよう日常的に情報交換を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>毎年度、消防署に依頼し消防訓練を行っている。ホームの上階には同一法人の看護師寮があり、緊急時の体制も整えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人としての尊厳を守ることを前提としたケアを心掛けている。誠実な対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者のニーズを明確にした上で、本人の思いや希望を最大限に活かせるよう促しを行っている。自己決定を尊重したケアを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のニーズに沿って個別ケアに取り組んでいる。本人のペースを尊重したケアを心掛けている。起床時間、食事時間も本人の体調・生活ペースに配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容時、自己選択をしていただけるよう支援している。また、外出時等は利用者を話し合いながら洋服を決めたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物へ一緒に行き、季節感を取り入れたり、一人一人の状態に合わせるよう配慮している。食事の準備・片付けにおいてはできる限り利用者の参加を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に応じて食事の内容等、柔軟に対応するよう心掛けている。また、十分な水分摂取を心掛け、嗜好に合った飲み物を数種類常備しており、嗜好に合わせて選択していただけるよう配慮している。毎日水分摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後必ず口腔ケアを促している。特に就寝前の口腔ケアは徹底して取り組むようにしている。必要に応じて訪問歯科医等と連携を図る等して、支援している。定期的に義歯のメンテナンスを行っている。また、訪問歯科医より口腔体操の指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個別に状態・状況を把握し、適切な排泄支援を心掛けている。できる限りトイレでの排泄が行えるように支援している。例えば、利用者の部屋から近いトイレを覚えていただくなど支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	「毎日排便」を目指している。排便を促し易い食材をとっていただけるよう配慮している。また、便秘の際は主治医・訪問看護ステーションに服薬調整を相談し、指示を仰いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者の状態や希望に応じ、個別の入浴支援を心掛けている。時間も基本は午後に入浴しているが、午前・就寝前等、柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	起床時間や食事時間等、施設のタイムスケジュールに固執せず、一人一人のペース、思いを重視して生活していただいている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	訪問看護ステーション・薬剤師と連携し、個々の薬について把握し、飲める形状にて提供させて頂いている。利用者の不調に気付いた際には、その症状を具体的に主治医・訪問看護ステーションに連絡しており、必要に応じて服薬に関する相談を行っている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	施設行事・外出・畑での野菜収穫など生活に楽しみが持てるように支援している。また、個別に生活歴を生かした役割、趣味が持てるように配慮している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	希望者には個別に対応するよう配慮している。花見や紅葉狩り、ドライブ、大型商業施設などの外出支援を行っている。		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	金銭の管理に関しては自己責任である事を同意していただいた上で、希望者には所持していただいている。また、日常のお小遣い等に関しては希望者には別段の契約の下、小口現金に限りお預かりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご希望に沿うようにしている。また、携帯電話の使用も取り扱うなどを含め希望に沿った形で支援している。また、施設の電話を利用し家族などと話せる機会を設けている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居間兼食堂には利用者の写真を掲示しており、テーブルには花を生けるなどして和める空間作りを心掛けている。また、天井や壁も落ち着いた色合いにしており、調度品等も馴染み易い一般的なものを使用している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>視線を変えた場所にソファを配置している。また、利用者同士の関係性に常に留意して、必要に応じて席替え・配置換えを行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>できる限り使い慣れたもの、馴染みのあるものをご用意いただけるよう、入居前にお話をしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>施設内はバリアフリーとして、車椅子走行も支障がないようにスペースも確保している。また、側面には手すりを設置しており、身体機能を活かした生活が出来るよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない